

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

自ら学び たくましく 心豊かな子

- 【知】主体的に学び、自分の見方考え方を生かしながら課題解決しようとする子を育てます。
【徳】人を思いやる心を大切にし、自他の人権を尊重して行動する子を育てます。
【体】よりよい生活習慣を身に付け、健やかな身体をつくろうとする子を育てます。
【公】地域の自然や社会から学び、積極的に関わろうとする子を育てます。
【開】グローバルな視野をもち、多様性を尊重し共生しようとする子を育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<言語能力> <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

中期取組目標

- 対話を大切にし、主体的に課題を解決する子どもを育みます。
-一人ひとりの子どもが学習の楽しさを実感し、自分の見方・考え方を生かしながら課題解決に取り組むことができる授業づくりを推進します。
・人との関わりの中で、互いを認め、思いを伝え合うことのできる豊かな人間関係の向上を図ります。
・地域の教育資源を生かし、協働して課題解決する力やコミュニケーション力を高めます。
・教職員間の連携や相互啓発を促進し、学校教育目標の実現に向けて活力ある組織的な取組を行います。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①重点研究を中心に、他教科においても子どもが自ら問いを見つげられる授業づくりについて教材研究や授業改善を進めていく。②子どもが見方・考え方の成長を実感できる授業のあり方について研究を進め、子どもが「分かった」「おもしろい」に繋がる授業実践を目指す。)

学力向上に関わる本校の状況

令和5年度の調査結果から以下のような実態が見られた。
(1)学習意識
教科によって学習に対する意欲の偏りが大きい。前年度と比較して、学習意識が下がっている学年も見られるため、児童が学習の過程で、自分の成長を実感できるような授業の工夫をする必要がある。
(2)学力
全学年において、横浜市の平均を超えている。引き続き、多様な子ども達一人ひとりがより自信と意欲をもてるよう、日々の授業を工夫していく必要がある。
本校では、令和5年度の重点研究として「主体的に学び、数学的な見方や考え方を生かして、課題解決しようとする力の育成」を目標に授業改善に取り組み、児童が自分の考えをもち、主体的に学習に取り組めるようになることで、学力向上につなげて

今年度の目標

主体的に学び、各教科の見方や考え方を生かして、課題解決をしようとする力の育成

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
・重点研究を中心に、各教科の見方や考え方に対する理解を深め、目指す子どもの姿を明確にし、子どもが主体的に学習を進められる授業改善に取り組む。
・日々の授業では、課題発見や振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に取り組む、自身の成長を実感できるような授業づくりをする。
・子どもが見通しをもって学習に取り組めるように掲示物やノート指導を工夫する。
・子どもが目的意識をもって取り組めるようなゴールの設定や教材の工夫をする。
下半期
・子どもが自分の思いや気づいたことを伝えられるような活動場面の設定や発問の工夫をする。
・3年生以上では教科担任制を生かし、担当の教科についてより専門的に教材を研究し、子どもが主体的に学習を進められる授業づくりをする。
・全国学力・学習状況調査や横浜市学力・学習状況調査の結果をもとに、子どもの学習の状況を把握し、授業改善に生かす。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①校内だけでなく、校外でも気持ちの良い挨拶ができるように、子ども主体の取組を取り入れながら、支援していく。②子どもが主体となって発信する「長津田ピンクシャツデー」の取組を増やし、人権意識のさらなる向上を目指す。③個別支援級や特別支援教室等の理解を深めるために年度当初に発達段階に合わせて紹介をする。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
(2)これまでの学校の取組状況
○生活意識調査の問「あいさつを自分からしていますか」についての回答を見ると、昨年度の5年生以下において、「自分からあいさつ」する積極性についてその割合が若干低い傾向にあることがわかる。あいさつの大切さは十分理解していると思われるが、「自分からあいさつ」することの気持ち良さ、気持ちの良いあいさつが自他の人権を尊重することにつながるのだと考えられる児童へと成長させたい。

今年度の目標

自他の人権を守り、他人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
○あいさつをすることで、人を思いやる心を大切にし、自分や他の人の人権を尊重して行動する見方や考え方を育てるよう、継続的な指導を行う。
○年度当初の「学年開き」(学年によっては「学級開き」)に、個別支援級担任、児童支援専任も必ず参加する。その際、個別支援級担任は個別支援級の意義とその特色等について、児童支援専任は自分の役割と、特別支援教室の意義、活用する児童に対しての接し方について、児童の発達段階に応じて丁寧に説明する。
○毎月1日を「長津田小ピンクシャツデー」とし、その意味を分かりやすく伝え、年間を通じた取り組みで、児童への「いじめは絶対に許されない」という意識の浸透を図る。
○「長津田小学校ガイド」をもとに、各月の月目標を意識しながら過ごせるようにする。
○各学年、生活科や総合的な学習の時間を通して地域の人や自然に関わる活動を行い、豊かな心を育む。
下半期
○あいさつをすることで、人を思いやる心を大切にし、自分や他の人の人権を尊重して行動する見方や考え方を育てるよう、継続的な指導を行う。
○児童の委員会活動が主体となった「あいさつ運動」が、あいさつすることの気持ちよさを伝えられるものとなるよう、支援する。
○毎月1日を「長津田小ピンクシャツデー」とし、年間を通じた取り組みで、児童への「いじめは絶対に許されない」という意識の浸透と学級学校の風土づくりを図る。
○「人権週間」を設定し、各学年に応じたテーマに沿って、人権意識の高まりを意図した授業を行う。
○「長津田小学校ガイド」をもとに、各月の月目標を意識しながら過ごせるようにする。
○各学年、生活科や総合的な学習の時間を通して地域の人や自然に関わる活動を行い、豊かな心を育む。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①体力テストの結果を踏まえ、健康的な体の育成を図る。②歯の保健指導や「すくすくタイム」等を通して養護教諭・栄養職員を中心に全教職員で保健指導、食育指導を実践する。③避難訓練を中心とした安全教育を計画的に実施し、児童の「自分の命は自分で守る」という意識を高める。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・全国体力・運動能力結果によると、実施した種目の調査結果は、全国平均または、平均を上回る結果を得ている。
・1年生から4年生までは、体育の授業以外で運動に親しむ児童の結果が横浜市の平均よりも下回っていたが5年生以上は平均を上回る結果となった。
・朝食を食べない児童が、学年によって15%を超える人数がいることが確認できた。
・1日の睡眠時間が3年生までは、8時間以上が80%を超えているが、4年生以上は60パーセント前後まで下がることが確認できた。
・体育の授業では、できなかった技ができた時や他者にできたことを認められた時に運動を楽しんでいるという意見が多く見られた。
(2)これまでの学校の取組状況
・一校一実践運動は、高・低学年と取り組みやすい運動種目を児童と相談して運動に対する関心を高めるきっかけになる短縄跳びに取り組んでいる。
・食育では、年6回「すくすくタイム」の実施、給食週間や地域野菜の紹介を通して、食べることへの興味や、健康に過ごすための食事の大切さや感謝の気持ちを育むよう取り組んでいる。
○学校保健委員会では、「姿勢の大切さ」を各クラスごとにめあてを立て、年間を通して取り組んだ。年度末には実践の成果を振り返り、次年度につなげていくように指導した。

今年度の目標

- 一校一実践として体を動かすことが楽しいと思える運動に親しむ機会を確保する。
○学校保健委員会を中心に健康に関する知識や態度を育む。
○「すくすくタイム」や日々の給食指導を中心に学級指導の充実を図る

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
《体育科・保健体育科での取組》「授業」のつながり
○単元の特性を明確にし、子どもたちが楽しみながら運動に取り組めるような授業作りを工夫する。
○年度当初に各学年で年間計画を見直し、児童の運動量を確保するため、同じ領域を同時に行わないようにしたり、学年ごとに体育館の割り当てを続けて組み、用具の準備の時間を短縮したりして、授業内容の工夫を図る。
○子ども一人ひとりがめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選び、運動に取り組めるよう指導する。
○自らの健康やからだの発育、性について科学的な認識をもった子を育てる。
○休み時間の校庭の遊び方ルールを決め、安全に楽しくスポーツに触れ合う子を育てる。
○学校保健委員会を中心に、健康や運動、食事に対する意欲や関心を高める。
○定期的に食育を取り組み、健康・食に対する意欲や関心を高める。
下半期
○子どもたちの特性を知り、楽しみながら運動に取り組めるような授業作りを工夫する。
○子ども一人ひとりがめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選び、運動に取り組めるよう指導する。
○一校一実践では、体力テストの結果を参考に、さらなる体力づくり向上に取り組む。
○運動委員会を中心に、児童の取組を考え、全校が運動に先んじて取り組む機会を図る。
○運動会では、体育科で学習したことを生かし、学年に応じた演技や競技でもっている力をさらに発展させられるような活動にする。
○学校保健委員会に取り組み、健康や運動、食事に対する意欲や関心を高める。
○給食委員会の「すくすくタイム」から、食育の意識を高めていく。